

カントリーロード

緑のふるさと協力隊員 神東美希の奮闘記

8



3月。協力隊の活動も「起承転結」でいう「結」の時期に入り、少々感傷的になり始めた今日この頃です。

先日、川根高校に招かれて講師をしました。経験談を話すうちに、伝えたい思いがどんどんあふれてきます。

「君たちはこの町の宝物だ！町を離れても、みんながそれぞれの道で頑張ることがこの町の財産になる。外の世界に出れば、改めて故郷や家族のありがたさに気づくだろう。この世界には私たちの知らないことが山ほどある。自

校生たちに向けた言葉は、本当は自身へのメッセージだったのかもしれない。彼らほど若くはないけれど、「私にもまだまだ可能性はあるし、何だってやれるんだ！」と力が湧いてくるのを感じました。こういう機会を与えていただき、本当に感謝しています。最近「協力隊が終わったらどうするの」とよく聞かれます。率直に言うとなら、「この町が好きだから」という理由だけではありません。「一年間という限られた時間の中で自分にできることはなんだろう…」昨年4月に本町に来て以来、いつも自問自答していました。

協力隊の一年間は特別です。町内のさまざまな場所で活動させてもらえるし、周りの人たちはみんな親切。ヨソ者・若者（かつ女性）ということに珍しがられるし、たいいていのことは大目に見てもらえます。この町を好きになるのは当然なのです。でも、本当に協力隊の真価が問われるのは、活動を終えたあとではないでしょうか。

私がこの町に感じることは「もったいない」ということ。さらに手厳しく言うところ「しょんないなく、放っておけないな」といったところでしょうか。今は諸問題で町全体が騒然としていま

すが、私はこの町にはまだまだ可能性があると思っています。自然や観光資源もそうですが、何より「この町に暮らす人」に可能性を感じるのです。だからこそ、協力隊という肩書きがなくなつたあとも「一町民としてこの町で暮らしてみたい、地域の人たちと一緒にこの町を元気にしていきたい」。そんな風に思うのです。

その第一歩として、友人4人で「川根女子部」を立ち上げました。「女性が集まる場をつくり、若い世代の交流をもっと活発にして、この町を盛り上げていこう」というグループです。まだ始動したばかりですが、すでにいろんなアイデアが出ていてワクワクします。女子部と一緒に活動してくれるメンバーも募集中です。

人と出会うごとに輪が広がっていき、私の人生「カントリーロード」がどんどん豊かになっていくような気がします。ますます自分の可能性、この町の可能性を感じずにはいられません。自身の進路については最大の関心事・心配事ではありますが、最後の最後まで「緑のふるさと協力隊」としての活動を全うしたいと思います。

思い出に浸っている暇はありません！次号で、じっくり一年間を振り返ることにします。

神東美希（かんとみき） 愛媛県伊予市出身 緑のふるさと協力隊員第18期生
緑のふるさと協力隊は、特定非営利活動法人地球緑化センターが推進する事業。
農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣。隊員として、農業や観光施設などで協力活動をする。美希さんは、本町5代目の隊員。



ブログ「徒然かつこin川根本町」執筆中！ <http://katsuko-topparohey.seesaa.net/>

広報かわねほんちよう

平成24年3月号

発行：川根本町 編集：企画課広報情報室 05547-2221
住所：〒428-0031 静岡県榛原郡川根本町上長尾627
広報かわねほんちようは、再生紙を使用しております。

広報かわねほんちようは、おたよりなどお待ちしています。
町に関する「広報かわねほんちよう」の問い合わせ先は、
05547-2221 役場企画課広報情報室です。



川根本町携帯電話サイト 休日当番医やお知らせ、各課の連絡先などが確認できます。QRコードからアクセスしてください。